

## 被災者の支援と復旧・復興に向けて —「令和8年熊本地震」に対する声明—

7月28日16時27分、熊本県熊本地方を震源とするマグニチュード7.1の大地震が発生しました。熊本県において最大震度7を観測したほか、九州全域をはじめ、広い範囲で強い揺れを観測しました。家屋の倒壊、大規模な土砂崩れ、事業所・設備の損傷など、各地で甚大な被害が生じています。また、余震が今もなお続き、多くの方々が避難所での生活を余儀なくされ、不安な日々を送っています。お亡くなりになった方々に心からご冥福をお祈りするとともに、組合員・家族をはじめ、全ての被災された方々に対して、心からお見舞いを申し上げます。

この地震により、水道、エネルギー、JRをはじめとする交通機関など基幹インフラにも大きな影響が出ています。鉄道では、鹿児島線八代駅構内にて機関車1両と貨車4両が横転したほか、九州新幹線において架線の断線、レールのゆがみ、橋梁のズレなどに加え、防音壁の落下が200カ所以上発生しました。また、在来線においても、電柱の損傷や乗降場の破損が多くの箇所が発生し、未だ全容が把握できていないほどです。

発生後、組合員の懸命の復旧作業により、本日、九州新幹線博多－熊本間の運行が再開されました。現在も昼夜を問わず復旧作業に従事している、グループ労組を含めた組合員に改めて敬意を表します。

この間、JR九州労組は、組合員に徹底的に寄り添う決意を示したコメントを発するとともに、発災翌日には熊本地方本部に支援物資を届けるなどの取り組みを行いました。また、会社に対しては、安全が確認できない状況で出勤や作業を求めないことや、安全体制の徹底、適切な交代・休憩・食事・睡眠の確保や長時間労働の防止などを求めてきました。

今後も酷暑や台風など、様々な事象が発生することが想定されます。今こそJR連合に集う全国の仲間が連帯して、労働組合の本分である相互扶助・助け合いの精神を発揮し、被災された組合員・家族の支援、地域の復興に総力を挙げよう！

2026年7月31日

日本鉄道労働組合連合会（JR連合）